

テーマ		産業・活力				
創造戦略		産業人材創造戦略 ～将来の札幌・北海道経済を支える人材の育成・活用～				
「成果指標」 実績値の推移に係る検証と今後の取組		(現状値)	25年度末 (実績値)	26年度末 (実績値)	----->	34年度 (目標値)
6-① 将来を担う創造性豊かな人材の育成						
37	「子どもが自然、社会、文化などの体験をしやすい環境であると思う人の割合」	63.9% (24年度)	60.7% (25年度)	60.8% (26年度)		70% (34年度)
	・実績値は横ばいで推移しており、その一因として、本市の子ども施策全体が一定の成果を生んでいるものと評価できる一方、子どもたちの経験を豊かにする環境の更なる充実を求める保護者が多いものと考えられる。 ・今後も引き続き、子どもたちが文化芸術に親しむ環境や、様々な就業体験、留学体験などの教育プログラムを充実させることで、幼い頃から創造性や国際感覚を育むことにより、札幌・北海道の将来を担う創造性豊かな人材の育成を推進する。					
38	「海外からの留学生数」	1,813人 (23年度)	1,850人 (25年度)	1,860人 (26年度)		3,400人 (34年度)
	・実績値は横ばいとなっており、北海道大学の留学生が増加する一方、市内のほとんどの大学が前年度と同水準で推移していることが要因となっている。 ・今後は、市内大学等が実施する誘致プロモーションや受入環境整備等の側面的な支援を実施していく。					
6-② 誰もが活躍できる社会の実現						
39	「仕事と生活の調和がとれていると思う人の割合」	47.4% (24年度)	48.6% (25年度)	47.3% (26年度)		70% (34年度)
	・実績値は横ばいで推移しており、社会的なワーク・ライフ・バランスに関する制度の整備や、本市における普及啓発等の取組が推進される一方、更なる充実を求められていることがうかがえる。 ・今後も引き続き、社会全体へのワーク・ライフ・バランスの普及啓発を継続して行っていくとともに、ワーク・ライフ・バランスの実践に向けた市内企業への新たな支援や、若者を対象とした情報発信を実施していく。					
40	「女性の有業率」	46.0% (19年度)	【参考】 45.2% (24年度)	—		60% (34年度)
	・生産年齢人口における有業率は、19年度は57.2%、24年度は58.4%と1.2ポイント上昇しているが、全体の有業率は、老年人口割合の増加等により、19年度と同程度になっている。 ・今後も有業率の低下が憂慮されるが、働く意欲のある女性の起業や就業を支援するとともに、多様な保育サービスの充実、ワーク・ライフ・バランスの促進等を通じ、女性の活躍をより一層推進していく。					